明倫訪ね歩きマップ2

1. 不動院

2. 結城宗弘旧跡

3. 竹内浩三の生家跡

4. 山田奉行所跡

5. 世木神社

6. 赤門寺 正寿院

7. 光明寺

8. 沢村栄治生家跡

9. 御師・三日市大夫次郎邸跡

10. 三浦樗良の墓

参考文献、参考資料

フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）https://ja.wikipedia.org/wiki/ ／
お奈津の方―家康の側室―中日新聞、フリーライター郡 長昭・伊勢市
三重県の俳句：三浦樗良
https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/haiku/42255035070.ht ／
教育委員会発行 伊勢市の文化財 （山田の世古 市役所界隈 道場之世古）
歴史の情報蔵 運営ホームページ 県史Q＆A 山田奉行所と大岡忠相
https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/rekishi/kenshi/asp/arekore/detail.asp?record=83 ／
ふるさとの歴史 津とその周辺編者 三重郷土会 三重県良書出版会発行／
箕曲中松原神社由来 箕曲中松原神社発行／
伊勢史 第8巻民族編 ／
西井易穂『うまし国 伊勢の偉人たちと歴史散歩』風詠社発行／ 中川蝉梵『増補 伊勢の文学と歴史の散歩』 古川書店発行／ 浜口主一 『伊勢山田散策 ふるさと再発見』 伊勢郷土会発行／

企画・製作 明倫地区まちづくり協議会 にぎわい委員会 TEL:0596－64－8246
〒516-0037 三重県伊勢市岩渕一丁目15番35号

2021.3.Ver6

1.【不動院・ふどういん】
創立年代は不詳。本尊の不動明王（市指定文化財）は室町時代の作である。その中には胎内仏があり、源平、屋島の戦いで扇の的を射抜いた那須与一宗高の兜におさめられた守り本尊であったと伝えられている。明治維新まで那須家より扶持米(ふちまい)の寄進が続いたという。

2.【結城宗広旧跡・ゆうきむねひろきゅうせき】
「太平記」の古い本には南朝の忠臣、結城宗広卿(入道道忠）が伊勢吹上の浜で没したと伝えていて、古くから一本木と呼ばれる所の木の下に結城宗広の碑と言われている石碑が現存している。また、光明寺（現同市岩渕三丁目）にその供養塚がある。（現吹上公園には光明寺跡説明板有り）。流布本「太平記」から、幕末になって、津幡津坂東陽の献議により、「結城医王大明神」として祀られてた地に墓が建てられ、神として祀られるようになった。現在、津にある結城神社。

3.【竹内浩三生家跡・たけうちこうぞうせいかあと】
竹内浩三（1921～1945）吹上町生まれ。宇治山田中学校在学中より友人と同人雑誌を制作。日本大学専門部映画科在学中に同人誌『伊勢文学』を創刊。1945年、フィリピンにて戦死。23年の短い生涯の中で多くの詩・短編小説・漫画を発表した。この家から明倫小学校、宇治山田中学校に通い、友人たちと青春を謳歌したのだろう。ぎゅーとらエディース八間通店前には「うどん」、「しかられて」の詩の看板がある。

4.【山田奉行所跡・やまだぶぎょうしょあと】
奉行所が町から離れているため「公事屋敷（出張所）」があった。伊勢市駅近くのスーパー敷地内に石碑がある。明治になり山田奉行所と山田三方会合に代わり、度会府庁が現・近鉄宇治山田駅の地に置かれたこの辺一帯は奉行所の役人が住み、お屋敷（小字）という地名になった。

5.【世木神社・せぎじんじゃ】
「世木」は、水をせき止める堰に由来する。古来より宮川の分流豊川をせき止めて水田の用水とする堰があったので、その度会一族の一つが世木村に住み世木氏を名乗ってここを氏神とし、治水を祈った。鎌倉期に盛行となるも、後に世木氏が他の地に移住後は村人たちの氏神となった。明治4年に周辺の藤里、岩渕にあった度会氏関係の社はここに合祀され現在に至る。

6.【赤門寺 正寿院・あかもんでら しょうじゅいん】
弘仁3年（812年）弘法大師により真言密宝修行の道場として創立された。大師に道場の建立を願った「藤原赤右衛門正壽（まさふさ）」がその名前の由来と伝えられる。以前は現在の商工会議所辺りに位置する七堂伽藍の大寺だった。現在「びっくり世古」の石碑があるが、その昔は「正壽院世古」と呼ばれていた。江戸時代初期から幕末まで有栖川宮家との関係が深く、親王が神宮御参拝の折御宿泊されたり、たびたび住職が経論の講義に召されたという。有栖川宮家の御祈願所・御用金貸附所として代々の住職がその命を拝した。

7.【光明寺・こうみょうじ】
光明寺は岩渕3丁目に位置する臨済宗東福寺派の仏教寺院で,山号は金鼓山（きんこざん）。南北 朝時代の南朝方の武将結城宗広の終焉の地とされ、近世の伊勢神宮周辺では唯一鐘楼を許可された「光明寺の一つ鐘」で知られる。寛文の大火まで吹上町にあった。

8.【沢村栄治生家跡・さわむらえいじせいかあと】
明倫商店街を抜けると、駐車場になっている空間があり、その西南の隅に澤村榮治生誕跡の石碑が立っている。この駐車場こそ、あの“球聖”沢村栄治が生まれ、育った実家のあった場所。2回目の兵役で腕を痛め、巨人を去り、三度目の兵役で台湾航行中魚雷を受け戦死。

9.【御師・三日市大夫次郎邸跡・おんし・みっかいちだゆうじろうていあと】
山田の代表的御師で最大の檀家数（35万戸）を持ったといわれている。現在伊勢市役所近くに三日市次大夫邸跡碑がある。家の土塀も一部であるが残っている。

10.【三浦樗良の墓・みうらちょらのはか】
三浦樗良（みうらちょら）1729～1781樗良は伊勢の中興六大家の一人で、紀伊長島浦地蔵町に生まれる。伊勢俳諧の伝統をもつ紀伊長島の百雄に手ほどきを受ける。山田で麦林、神風館の人々と交わったが、木本・ 新鹿（あたしか）（熊野市）で旗をあげ、山田に無為庵（がいあん）を構えた。「樗良は笠付（かさづけ）に遊ぶ」と自嘲したこともあり、桑名長島に仮住み、江戸、北国に放浪もしたが、安永2年（1773）蕪村を知って同5年には京都へ移る。平淡清新な叙情で俳諧革新の一翼となった。北越、加賀が勢力圏。安永9年(1780)、山田へ帰り52歳で没した。墓は伊勢市一誉坊（いちょぼ）墓地にある。著作には『我庵』（ワガイホ）『石をあるじ』『樗良発句集』等がある。

11.【錦水橋・きんすいばし】
明治36年8月、新しく倉田山に開通予定の徴古館への道路（御幸道路）の勢田川をまたぐ新橋が錦水橋と名付けられた。古来より、伊勢市の名所の一つであった岡本の里は、錦河内、錦の小河と呼ばれていた。少し上流の小田橋から外宮の東に位置するこの辺りは宮崎沖と呼ばれ、秋になるとあたりの山は錦で彩られたので、錦は秋の紅葉を現わし、錦水の名の元となった。

11. 錦水橋

12. 箕曲中松原神社

13. 小田の橋

14. 豊川茜稲荷神社

15. 何木塚

16. お杉・お玉

17. 寿巌院

18. 旧豊宮崎文庫

19. 清雲院跡

20. 虎尾山・きんとびの塔

21. 小田神社

22. 勢田川のほとり

12.【箕曲中松原神社・みのなかまつばらじんじゃ】
近辺の神社18社を合祀していた神社。名前の由来は箕⇒みのる（土地質が良く農作物がよく育った。）曲⇒勢田川が大きく曲がった場所。山田は土地がよく肥えていて、浦田は土地がやせていて農地には向いていなかった。神社の中心に大きな楠がある。この地が外宮の鬼門にあたる場所なので楠を植えて祭った。樹齢は800年から1000年と言われ、白い蛇が住んでいたと言われている。境内にある豊川稲荷はその昔、商人が各家庭で祭っていたものを一手に引き受けて祭っている。

13.【小田橋・おだのはし】
外宮と内宮を結ぶ参宮道の勢田川に架けられた橋で、伊勢古市参宮街道の起点で古市の入り口。江戸時代までは木橋の横に小橋が架かっていた。この小橋は忌服のもの生理中の婦人が通行することになっていて、かつては伊勢が絶対神聖の地であったことを物語る一つの現われでした。しかし、江戸時代、古市は五大遊郭の一つに数えられた遊里でもありました。

14.【豊川茜稲荷神社・とよかわあこねいなりじんじゃ】
外宮神苑・勾玉池のほとりのこの地は、古くは「赤畝」(あかうね)と呼ばれていた。ここに鎮座した本社は赤畝の社と呼ばれ、外宮の摂社であったと推定される。創期は不詳。やがて、歴史の中で荒廃し、室町時代に土地の人の産土神(うぶすながみ)としてよみがえる。「赤畝の社」はなまって「あこね」となった。「以来、「あこねさん」は境内の茜稲荷や、茜天神とともに土地の人々（産子）の願いを聞く。五穀豊穣、商売繁盛、家内安全、学業成就など。山田産土神（やまだうぶすなかみ）の一つで、ご遷宮の度にその残材の払い下げを受けて神宮にならってご遷宮をしてきた。

15.【何木塚・なんのきつか】
伊勢の外宮に山田の俳人たち（勝延、益光、嵐朝等）と参拝した時の発句である。西行の「何事の おはしますかは 知らねども かたじけなさの 涙こぼるる」をふまえて、神域の名状しがたいほど神々しい気配を、目に見えぬ木の花の匂いで象徴的に捉えている。外宮の神域はうっそうたる杉の古樹に囲まれていて余情が深い。

16.【お杉お玉・おすぎおたま】
江戸時代、間の山で、代々、お杉・お玉と名のる女性が箙(ささら)・三味線に合わせて歌った俗謡。大正15年まで興業、参宮道が御幸道路に変わり、古市遊廓と同じく衰退した。

17.【寿巌院・じゅがんいん】
元和元年（1615）、緑蓮社欣誉巌上人の開基と伝えられている。宝永3年（1706）の大火から中興、その後山下にあったものを山上の現在地に移設し、明治の廃仏毀釈にも耐え、入門寺、念仏寺、善念寺などを合わせながら現在に至る。境内にある「眠地蔵」は不眠症や子供の夜泣きに、「身代わり地蔵」は病人の身代わりになってくれると伝えられている。また、三浦樗良(1729～80)の落葉塚、神風館十一世野篠寸大(1726～1807)らの句碑の他、六地蔵石幢(17世紀)がある。中でも、落葉塚の三浦樗良の句碑は有名。三寺を合祀したため、祀られている仏像には由緒がある。

18.【旧豊宮崎文庫・きゅうとよみやざきぶんこ】
慶安元年（1648）外宮権禰宜の出口延佳の主唱で、創設された外宮祠官の学問所、幕府の保護も受け、室鳩巣、貝原益軒らも来講し蔵書は2万冊を超えたという。（国跡）江戸時代、外宮祠官子弟の修学道場として発達し、図書館と学校の性格を併せ持っていた。当時は書庫・講堂4等があったが、今は表門を残すのみ。桜の名所としてお屋根桜が有名。

19.【清雲院跡（別名おなつ寺・家康の側室）・せいうんいんあと】
徳川家の側室、お奈津の方の心願により寛永7年（1630）吹上町に開基、家康の像も安置し、東照山清雲院と称した。寛文10年の山田の大火によりこの場所に移転。現在は神社港にその寺号が残る。また、お奈津の方は伊勢商人が江戸に進出のきっかけを作り、支援した。

20.【虎尾山・きんとびの塔・とらおやまきんとびのとう】
明治時代戦役記念碑、通称「きんとびさん」は昭和3年4月に建設された。この記念碑は「金鵄（きんとび）」と呼ばれていた。頂上の鵄の像は「本当に金色をしていた」とのこと。映画『半分の月がのぼる空』（原作伊勢出身の橋本紡）に出てくる「砲台山」で、伊勢中心部が展望できた。40年代に、何者かにより、ニャロメの落書きをされたことから、ニャロメの塔とも呼ばれた。

21.【小田神社・おだじんじゃ】
伊勢市岡本2丁目にあるこの神社は勢田川世義寺橋の近くの滝浪山のふもとに鎮座ている。御祭神は皇室の命を受け最初の神宮御造営に当てられ初代の禰宜としてご奉仕せられた命の子孫が荒木田氏祖先である天見通命（アマノミトオシノミコト）を祖神とし、子孫分家し、地名をとって小田社とした。

22.【勢田川のほとり・せたがわほとり】
最近、市民の勢田川浄化の努力としゅんせつ工事によりかつての魚が豊富にいた頃の風景が徐々に戻りつつあり、干潮時の川のせせらぎや魚を狙う多くの鷺や鳥の姿を見ることができ、地元の人にとっては良き散歩コースとなっている。

23.【世義寺・せぎでら】
天平年間（729～748）聖武天皇の勅願により僧行基が前山町亀谷郷に建立したと伝えられている。中世、外宮宮域の西に移り、寛文10年(1670)の山田の大火で類焼をまぬがれたが、神域と寺門の接するのを憂えた山田奉行により、現在地に移った。その間、大峰山修験道の先達寺院して盛時には十余坊塔頭があったが、現では護摩堂だった威徳院のみとなる。毎年7月7日に行う柴灯（さいとう）大護摩は日本三大護摩の一つとして、内外両宮の法楽から万民悦楽までを祈る激しい祈祷で当時の伝統を残している。

24.【田上大水神社・たのえおおみずじんじゃ】
「丸山さん」ともいわれる。外宮の度会神主四門の祖である小事（おごと）が祭られている。その女（むすめ）である宮子（みやこ）を祭る田上大水御前神社も鎮座する。もとは前方後円墳と考えられる。

25.【中山寺・ちゅうさんじ】
亀山城主石川備前守の依頼により慶安4年（1951）建立。在職中に伊勢で亡くなった山田奉行の墓がある。（三枝伊予守と小出豊前守）徳田椿堂の「炭こぼしこぼしゆる也おくの院」の句碑がある。

26.【蓮台寺柿・れんだいじがき】
外宮と内宮の間の鼓嶽山（こがくさん）蓮台寺というお寺のあった地域一帯で350年以上栽培され、その名称と共に愛され、守られてきた柿、渋柿の為、渋抜きして出荷される。肉質のきめ細かさやまろやかな味は果物としてのクオリティーも高い。伊勢市の指定天然記念物でもある。